

創建

そうこん

巻頭言：出村克宣・1

平成25年度卒業研究テーマ・2～3

Letter from Delft vol.1・3

復興に向けた活動報告①②・4～5

新人公務員からのメッセージ・5

白水阿弥陀堂見学報告ほか／新任紹介・6

学術論文・発表論文／教室ニュース・7

教職員名簿・8

2012・7・12 VOL.47 NO.2 (通巻143号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

ある会合で、元気な学校のあり方が話題にのぼったので、次のような二つの話を紹介した。

同じ業種の自社ビルを持つ、二つの会社がある。その二社を訪ねて、それぞれのビルの階段を上っていった。一社のビルでは、出会う人・出会う人から「こんにちは」と挨拶される。もう一方のビルでは、出会う人々は無言で通り過ぎるという。しばらくすると、挨拶のなかった会社の業績が悪化し、一方の会社は業績が好調であるという。

校内が荒れている学校があった。そこで、ある教員が正門に立って、毎朝「おはよう」と生徒に声をかけ始めた。しばらくすると笑顔で答える生徒が増えた。それを見て、他の教員も同じことを始めて、一年も経つ頃には、活気ある学校に変身していた。

一流のスポーツ選手には、明るい性格の持ち主が多いという。明るい人はドーパミンの分泌が活発で、このホルモンは「やる気物質」とも呼ばれているそうである。

新入社員でも人事評価をしなければならない。その時上司は何を基準に評価するのか？ 挨拶、上司への伝言やレポートに誤字・脱字がないか、漢字があるのにひらがなになっていないかなどである。理由は、新入社員に業績を求めても無理なことから、社会人としての規範は言葉遣いと日本語に現れるからである。

今、学生諸君は、専門分野について多くのことを学んでいる。しかし、伝えきれないことも多い。

その昔、大学卒業したての現場監督が、図面片手に排水管の高さを測っていた。すると、図面と異なる高さの配管部分があった。そこで、水道屋さん（配管屋とも呼ばれていた）を呼んで、そのことを指摘すると、水道屋は、「あなたの言うとおりに配管するよ」といって、手直しを始めた。しかし、作業が終わって

水を流してみると、流れないところがあった。

水は高いところから低いところに流れる。それを一箇所の排水溝に集めるには、いくつもの排水管を立体的に捕らえて、それぞれの勾配を決めなければならない。当時は、現場でベニヤ板に配管の立体的な施工図を書いて、個々の排水管の長さや高さを決めていた。水道屋さんは、排水管を繋いだ後の立体的な連続性を頭の中で描くことができていた。しかし、その若い現場監督は、そこまで考えが及ばなかったのである。

プロになるむずかしさ

教授 出村 克 宣

また、ある時、新しい壁塗材を開発したので、左官屋さんに施工をお願いした。すると、考えてもいない方法で施工し始めた。そこで、「材料の取り扱い方が違う」と指摘したら、それなら自分でやれと怒られた思い出がある。ごめんなさいと謝って、壁を作るという目的だけを伝えたら、思いもよらない素晴らしい壁が短時間で出来上がった。左官屋さんは、これまで触ったこともない新しい材料の特性を瞬時にとらえて、それに見合う施工法をその場で生み出したのである。プロの現場では、机上の理論だけでは解決できないことも多い。

最近、そのような「屋」のつく職業が少なくなったのではないのかという指摘を受けた。つまり、様々な分野において、ある種の職人の技を持った人々が少なくなっているという指摘である。専門職の伝承に時間が割かれていないのか、伝承されるべき専門職人が減っていることが原

因なのかもしれない。

工学分野でいえば、エンジニアに対する技術の伝承であり、教育そのものを指すことになる。しかし、「〇〇屋」と呼ばれるエンジニアになるためには、長い時間と経験の積み重ねが必要である。大学での学習は、建築家、建築エンジニアとしての技を身に着ける入口である。

但し、「〇〇屋」というと、ある一つのことに長けていると勘違いしないほしい。実際には、多くの周辺技術や知識を身につけた上で、ある一つの事柄をこなしている。一を知って一をこなすのではなく、百を知って一をこなすほうが、成される事柄の出来栄が違ってくる。経験に勝る勉強はないともいわれる。短時間で多くの経験を積むことは難しいと思うが、学生諸君には、学生時代はもちろん、社会人になっても、専門分野に関してこんな職人の技を身につける努力をしてほしい。

工学部卒業の社会人に対して、現在の地位、そしてそれを支える知識・能力はどのように養われたかという調査結果がある（矢野眞和著、「大学改革の海図」、玉川大学出版部、Sept. 2005, 309 p.）。現在の地位を支える知識・能力とは、専門知識、基礎専門知識、語学、社会経済に関する知識、対人関係能力、プレゼンテーション能力、マネジメント能力などを含んでいる。

そこには、『「大学時代の学習熱心度」が「卒業時の知識・能力獲得」を媒介として、間接的に「現在の地位（所得など）」を向上させている。激しく変化する環境の中で技術者が生きていくためには、常に新しい知識・能力を向上させていかなければならない。その過程で重要なのは、大学時代の学習経験である。』と述べられている。つまり、大学において専門知識を学ぶことはもちろん、その学びを通じて学習の習慣を身に付けることが重要である。（工学部長）

平成25年度 卒業研究テーマ一覧

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されている卒業研究テーマを参照のうえ、所属する研究室を選択しましょう。

構造・材料系

■材 料

出 村 克 宣 教授〔論文〕

齋 藤 俊 克 助教〔論文〕

1. 繊維補強ポーラスコンクリートの開発
2. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
3. コンクリートのひび割れ制御・補修技術の開発
4. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
5. 高機能性塗料の開発
6. 遮熱材料・システムの開発

サンジェイ・パリーク 准教授〔論文〕

1. 自己修復型（インテリジェント）コンクリートに関する研究
2. 建築用内装材・外装材の防火性能に関する研究
3. 新規防せい剤及びシステムによるRC構造物耐久性改善
4. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた柱・梁接合部に関する実験・解析
5. RC構造物の耐震補強に関する実験・解析
6. 放射能による汚染物格納のため超重量コンクリート容器の開発
7. インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

■構 造

浅 里 和 茂 教授〔論文〕

1. 鋼構造接合部の耐力評価に関する研究
2. 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
3. 建築物の耐震化データベースの構築
4. 有限要素法による鋼構造部材の弾塑性解析
5. 鉄骨製作における品質管理に関する研究

倉 田 光 春 教授〔論文〕

1. 知的構造フォルムに関する研究
2. 知的構造解析法に関する研究
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究
4. 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究
5. 構造材料に関する研究
6. 建築における情報技術利用に関する研究
7. その他

千 葉 正 裕 教授〔論文〕

日比野 巧 助教〔論文〕

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
3. 建物の近似振動解析法に関する研究
4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
7. 各種構造解析プログラムの開発

野 内 英 治 准教授〔論文〕

1. 空間構造に関する研究
2. 構造物の非線形解析に関する研究
3. 構造物の崩壊解析に関する研究
4. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発
5. 耐震設計法に関する調査・研究

G・ブンタラ・ステンリー 准教授〔論文〕

1. 遺伝的アルゴリズムを利用した建築構造物の最適化に関する研究
2. 無重力状態で自己釣合い・自己展開できる構造物の研究
3. 建築構造物と鋼管杭による地盤沈下防止・免震効果の研究
4. 住宅のため低コスト・低メンテナンス免震・制振装置の研究開発
5. 3次元地盤・構造物の地震時挙動シミュレーション的研究
6. 地盤、基礎と構造物の相互作用を考慮した大型模型振動実験と解析的研究
7. 3次元CADと構造解析ツールの統合化に関するソフト開発

計画・環境系

■都市計画・設計

三 浦 金 作 教授〔論文・設計〕

1. アーケードのある街路の空間構成に関する研究
2. 探索歩行時の注視に関する研究
3. 街路景観に関する研究
4. 都市公園に関する研究
5. 広場・オープンスペースに関する研究
6. 都市景観に関する研究
7. 西欧都市構造に関する研究
〔設計〕都市デザイン・まちづくり・建築設計

土 方 吉 雄 准教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究
 - 1) 土地利用の更新過程
 - 2) 中心市街地
 - 3) 都市マスタープラン
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
 - 1) 都心居住・住宅マスタープラン
 - 2) 環境共生住宅地
 - 3) 子どもの遊び環境
 - 4) 居住地の防犯設計
 - 5) 街並み景観ワークショップ
3. 都市設計・まちづくり・建築設計

■建築計画・設計

若 井 正 一 教授〔論文・設計〕

1. 人間環境系からみた安全性や快適性の研究
2. 人間の生活スペースの改善に関する研究
3. インテリアの構成要素に関する研究
4. 建築・インテリアの設計手法に関する研究
5. 建築・インテリア関連の資格と職能の研究
6. その他（ヒトに関係する新規課題を歓迎）
〔設計〕
 1. ストーリー（物語性）のある空間
 2. その他（夢のある設計課題を歓迎）

浦 部 智 義 准教授〔論文・設計〕

1. 劇場・コンサートホールに関する多角的な研究
2. 文化・医療など施設計画・評価に関する研究
3. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究
4. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
5. 二地域居住や中山間居住に関する研究
6. 環境デザイン・パッシブ建築に関する研究
7. 震災後の復興・復興住宅・まちづくりに関する研究
〔設計〕社会的効果・計画手法・空間演出など何らかの説得力のある提案

松 井 壽 則 准教授〔論文・設計〕

【住居系】

- 1) 住宅改修・改造（リフォーム）に関する研究
- 2) 公営集合住宅に関する調査研究
- 3) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究

【施設系】

- 1) 通所型在宅サービス提供施設に関する調査研究
- 2) 特別養護老人ホーム・介護型老人保健施設の計画に関する研究
- 3) 保育園・幼稚園の計画に関する研究
- 4) 特殊学級、養護学校に関する調査研究

【地域系・その他】

- 1) 安積開墾の耕地と宅地に関する調査研究
- 2) 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究

〔設計〕上記テーマに関する設計

市 岡 綾 子 専任講師〔論文・設計〕

1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 子どもの環境行動に関する研究
4. 東日本大震災後の復興に関する研究
5. 地域におけるまち資源の活用に関する研究
6. 生活者の視点からみたまちづくり

■歴史・意匠

速 水 清 孝 准教授〔論文・設計〕

1. 福島県の建築・都市を中心とする東北地方の近代に関する研究

る研究

2. 福島県の歴史的建造物の発見・維持・保存に関する活動
3. 日本の近代を中心とする建築の歴史に関する研究
4. 建築家を中心とする建築技術者の職能と法制に関する研究
5. 建築技術者の人物史に関する研究
6. 建築家の作家論に関する研究
7. 建築技術の歴史に関する研究

〔設計〕持続可能な社会に向けたプロトタイプとなり得る建築、ないし特殊解としての建築の提案

大 山 亜紀子 助教〔論文・設計〕

1. 木造建築（社寺・民家）の地域的特性と変遷
2. 宗教建築の機能に対応した空間構成と意匠・技術
3. 東南アジアにおける組積造建築の発展と木造技術との関係性
4. 保存活用・公開を主眼とした地域の歴史的建造物の再評価
5. 大工道具の実測からみた加工技術と建築作品の関連

〔設計〕地域の特性を生かした歴史的建造物の活用

■環境工学

濱 田 幸 雄 教授〔論文〕

1. 生体音響信号の測定・分析手法に関する研究
2. 音響模型実験による応急仮設住宅の遮音性能改善手法に関する研究
3. レーザードップラー振動計の応用技術に関する研究
4. 音楽練習室の音響特性に関する研究
5. 床衝撃音の評価方法に関する研究

Letter from Delft vol. 1

「大きな村からのメッセージ」

准教授 Sanjay PAREEK

日本を離れ、オランダ（独：Nederland＝低地）南部の街デルフトにあるTechnical University of Delftにお世話になり、早5ヶ月過ぎようとしています。そこで、これから数回に分け、西欧の爽やかな風を皆さんにお届けします。

初回は私が見たデルフトの街を紹介します。デルフトはProf. Klaus Van Bruegel曰く大きな村と言われ、画家ヨハネス・フェルメールの生まれ故郷でもある中世の香り漂う古都です。また、デルフト焼はとても有名で、その製造法は17世紀にオランダの東インド会社を通じて中国から伝わったため、中国の陶器に似ているとも言われています。この街の中心部には街のシンボルである旧教会と新教会があります。旧教会はOudekerk (Photo 1) に位置しています。この教会の塔の高さは75mですが、地盤沈下に伴い中心からほぼ2m傾いた状態で建っています。新教会New Church (1655年完成：Photo 2) には、オレンジ公ウィリアムを始めとするオランダの王室代々のメンバーが安置されています。

街全体は運河（Canal）が張り巡らされており、昔ながらの石畳の道はゴシック調の家々ととても調和しています。さすが自転車王国オランダだけあり、中心部は自転車道と歩道で構成されており、交通や治安の面で安全が確保されています。New Church横の広場では数多くイベントが開催されており、中でも毎週木曜日と土曜日は、原地産の野菜、チーズ、パン及び魚貝類などが農村の人たちにより自由に販売されており、町の住民の一体化と交流が図られています。運河境界では毎週土曜日にFlea-Market (Photo 3) が開かれ、家庭で不要となった物や個人で作った小物などが売られています。私もNew Churchのそばに住んでいて、その住宅 (Photo 4) は14世紀のChapelを修復・保存した文化遺産建物です。デルフトは学術・芸術・歴史的な要素を備えていてとても活気のある街です。

今回は、TU Delftの大学内や、大学における研究活動についてお伝えします。



Photo 1 : Oudekerk



Photo 2 : New Church



Photo 3 : Flea-Market



Photo 4 : 補修・保存された14世紀住宅

東日本大震災・復興に向けた活動報告①

福島における仮設期から復興に向けた取り組みについて

准教授 浦部 智 義

1. はじめに

福島県郡山市にある大学研究室（浦部研究室）として、以前から関わりがあった会津の建築家である芳賀沼整・滑田崇志両氏が率いるはりゅうウッドスタジオと協働してログハウスの木造仮設住宅（以下、ログ仮設と略）の計画・設計・建設に携わって以来、福島県（以下、県と略）の復興に関わる活動と平行しながら、「仮設住宅」「コミュニティや二地域居住」「再生可能エネルギー利用」「復興や復興住宅」など、様々なことを同時に考えさせられた。これらは、個別の問題というより復興に向けて複雑に絡み合ってくる問題であり、未だ回答を模索中の部分もあるが、紙面の都合もあるので詳細は別文1・2）に委ねるとして、我々が行っている活動の一部を簡単にご紹介する。

2. 仮設・復興と再生可能エネルギー利用

本学は、「ロハスの工学」をコンセプトとして、研究・教育活動に取り組んでいることは周知の事実だが、私の研究室では、地方における暮らしや文化、中山間地の過疎の問題など、また、環境建築に関しては将来的な資源の枯渇等に着眼して、特に本学機械工学科と連携しながら再生可能エネルギーを最大限に活かした住宅計画を目指す「ロハスの家」プロジェクトに、震災前から取り組んでいた。

特に後者は、太陽光の利用や通風、空気循環はもとより、地中熱や雨水利用など、断熱性能を意識しながら再生可能エネルギーを最大限利用するパッシブ建築を目指した「ロハスの家3号」の計画・設計で検討した項目が、原発事故によるエネルギー問題も重なり、今後の住宅性能を考える際に、検討すべきであろう項目が多く含まれることとなった。

一方で、復興において特に県内では、再生可能エネルギー利用をはじめとするエネルギー問題に取り組むべき姿勢は疑う余地は無いと考えていたが、様々な制度も含めて、コストを鑑みながら（復興）住宅を建てる施主の意識が高まる様な提案や活動をしていく必要を感じていた。そこで、我々はその先駆的に、上述したログ仮設プロジェクトの一環として、本宮市恵向公園のログ仮設集落内の仮設集会所施設を「ロハスの家」の手法を活かした

計画・設計とし、その効果を期待する取り組みを行った。

その様な「ロハスの家」や「仮設集会所施設ロハス計画」の他に、上述したログ仮設チームを基本としたチームに難波和彦氏にも加わって頂き結成した福島復興再生住宅協会として参加した福島県復興住宅プロポーザルの当選案では、建設される単位や規模を想定して、一戸・一軒の性能・エネルギー自立でもスマートシティの様な大規模でもない、ある集落単位でのエネルギーの共有化（また、それを媒介としたコミュニティ形成も期待できる）が重要であるとの見通しから、我々はそれを建築的に提案している。

3. 復興に向けて

我々は現在、建設に携わった仮設住宅地においてはメンテナンス等も含めて、また木造仮設全体には研究会等を通して継続的に関わっているが、復興や復興住宅に向けて避難住民を対象としたワークショップ等を通じて、より詳しい住民の意識や動向の調査をはじめている（図1, 2）。

上述した様な考察や復興住宅プロポーザル当選案等も、最終的に復興住宅等に居住する方々にとって有効なものにならなければ、意味が薄れる。そういったことから、定期借地権の活用など権利関係も含めた土地利用の問題への検討と平行して、ワークショップ等を積極的に行いながら、住宅コストの問題、居住地の選択の問題も含め避難者の意識や動向等を見極めることが重要であろう。

この数年間、その様な検討・整理とワークショップ等の活動の実行のスピードが同時並行が求められることが予想される。その中で、我々は、今日までの活動と同じく、若しくはそれ以上に極力現場に近いところに身を置き、現場の中で生きたプロジェクトを行いたいと考えている。

【参考文献】

- 1) 福島県における仮設期から復興に向けた住環境形成への取り組み, 浦部智義, 芳賀沼整, 滑田崇志, 農村計画学会誌, 2012年6月号
- 2) 滑田崇志, 浦部智義, 芳賀沼整ほか共著, 「木造仮設住宅群」, はりゅうウッドスタジオ制作・日本大学工学部浦部研究室制作協力, ポット出版, 2011年12月



図1 福島の現状と風土と考慮した住環境のシミュレーション



図2 南相馬型：仮設住宅地に復興住宅を入れ込んだスタディ

東日本大震災・復興に向けた活動報告②

福島県の歴史的建造物と震災

准教授 速水清孝

建築史の研究は何より、見ることに始まる。

だから、ということもあって、昨年、赴任にあたり自分に課したのが、まず、福島の建築を全て見ることであった。近代建築の研究は広く深く進み、厚い成果が豊富にものされる現在にあっても、何しろ全国3位の広さを誇る県である。まだまだ掘り出し物がゴロゴロあるに違いない、と楽しみにしていた。その矢先の震災である。

「見るべきものは全て壊れた……」と、しばし呆然自失となった。

けれど、「見もせずガックリ来るのは早い。実際にどうなったのかを確認しなくては」と思い立ち、その後一年、ひたすら歴史的建造物の被害の確認に当たっている。ありがたいことに学生、先達・同業の研究者、建築家協会や建築士会の方々のご協力も得ながら、安否を尋ね歩き、その確認は先ごろ500を超えた。

何事もなかったかのように屹立する姿に胸を撫で下ろしたこともある、思わぬ傷みように言葉をなくしたこともある。まさに地震で倒れたならあきらめもするが、地震からしばらく経って人為的に壊されたものの何と多いことか。いわゆる公費解体である。すでに起こっていた都市の空洞化が、目に見える形で現れたのだとしても、それでも「どうにかできなかったか」と思うのだ。

僕が建築学会の一員として保存の要望書をあつらえた「旧ノートルダム修道院」（福島市、1935）もそんな例の1つといえるだろうか。書いてからわずか数日という異例の速さで提出・受理に至ったことも手伝って、「あるいは？」と期待した奇跡は起きることはなかったが、せめてもの供養にと、ありし日に備えていた建築の特徴の把握に努め、その設計を手がけた謎の建築家の生涯を追いかけている。

それにしても、福島の建築、わけても中心となっている近代の建築は、コンクリートや石もあるものの、圧倒的に多いのは木のそれである。不思議なほどに軸組は耐え、残った。それでも、あまりに続いた余震に、瓦はズレ、土壁は傷み、基礎廻りは落ち、と手を入れずには済まないものの多いこともまた確かである。さて、これからこれをどうしていくか——。あるいは土壁なら、荒壁の補修くらいなら、

お手伝いできる余地もあるか？文化財クラスは手に負えないとしても、それ未満のものならばあるいは？などなど考えながら、まずはあと150、これを早急に廻ることが課題となっている。



解体中の「旧ノートルダム修道院」
(2012年1月筆者撮影)

地域の発展のために役立ちたい

この春公務員として歩み出した卒業生からのメッセージ



後藤 司 2011年博士前期課程修了
(三浦研究室)
上山市役所 建設課 都市計画グループ
出身校 東海大学付属翔洋高等学校(静岡県)

私は昨年、大学院研究生として研究活動のために訪れたイタリアの街並みに影響を受け、古き良き街並みが残る地域での都市再生整備計画事業に興味を持ち上山市職員を志望しました。同時にイタリア滞在時の研究チームリーダーとしての経験が自分に自信を与え、採用試験の成功に繋がったと思っています。漠然とした気持ちと不安だけを持って臨んだ民間企業への就職活動と、明確な目標と自信を持って臨んだ上山市職員採用試験を通して、在学中のたった1度の大きな経験が一步を踏み出す時に背中を押してくれることに気付きました。だからこそ、何かチャンスが巡って来た時、どんなに小さなことでも良いので積極的にチャレンジしてください。それが必ず自分の力になると思います。



矢吹さおり 2011年卒業(市岡研究室)
須賀川市役所 建築住宅課 建築指導係
出身校 福島県立白河旭高等学校

私が公務員を目指したきっかけは民間の就職活動でした。学部生の頃は民間の就職活動をしており、様々な会社の説明会に参加しました。そこで私が仕事に求めることは人や地域のためになることだとはっきり分かり、それから公務員を目指し始めました。

卒業後は研究生として大学に1年残り、公務員を目指しました。たくさんの試験を経験し、面接などの傾向をつかめたことが大きな力になったのだと思います。学内の公務員講座の面接や集団討論の練習では、先生に自分の悪い所を的確に指導して頂けるので自分では分からない欠点に気付く、とてもためになりました。

現在は須賀川市役所で建築指導の仕事を行っており、いち早く職場にとって須賀川市にとってなくてはならない存在になれるようスキルアップを目指して努力しています。進路を決める際には、自分が何をしたいのか、何を仕事に求めているのかをしっかりと考え、妥協せずに納得のいく道へ進んでほしいと思います。



櫛田 美和 2011年卒業(三浦研究室)
いわき市都市建設部建築指導課指導係
出身校 福島県立磐城農業高等学校

私は職員として勤める以前、臨時職員として就業しつつ、公務員を目指していました。採用のため、一級建築士試験同等の知識を得ること、公務員として働く自分や、市民が期待する行政を具体的に考え、面接で伝えられるよう、対策しました。

就業した今は、建築指導課で建築計画の指導や、家屋修繕の震災業務をしています。建築や復興に関わる民間企業や市民を支援できることに、市職員としてやりがいを感じます。いわき市では、今年、建築職の募集人数を増やし、復興への実施力を高めています。新規採用者への期待の表れであり、このことが就職活動での公務員を目指す意欲となっていただければ幸いです。

白水阿弥陀堂に魅せられた一日

大学院博士前期課程1年 小室 加津彦

福島県唯一の国宝である白水阿弥陀堂は現在、56年を経た屋根板の葺き替えのため、素屋根と足場に覆われています。5月31日、私を含む40名の日本大学工学部建築学科有志は、願成寺ご住職のご厚意で、この葺き替えを見学させていただく機会に恵まれました。

郡山からバスで1時間半、いわきの地に着いてまず圧倒されたのが、目の前に広がる平安の浄土庭園が放つ壮麗さでした。見事というより他ない光景に、修復ののち再び建築と庭が一体となった姿を堪能したい、と早くも再訪を心に誓ったほどです。

肝心の屋根は檜を使い、板葺の中で最も厚い栩葺です。これが丸太から板になるまでの実演に加え、その板を止める竹釘打ちや、50年後の葺き替えに向けた祈願文の墨書をさせていただき、いよいよ工事の見学となりました。足場を登った先では、屋根職の方が、計8万枚に及ぶ板を黙々と正確に、かつ猛烈な速度で打ち止めており、圧巻の一言でした。その傍らには露わになった野地板、中には力強い小屋組、また、葺き終えた箇所美しい反り、細部に施された繊細な工夫といった数々を間近に目にして、伝統木造技術の放つ力と可能性、そして手仕事の偉大さを、ひしひしと感じた一日でした。



職人技に挑戦（竹釘打ち）



屋根の葺き替え現場

住宅作品見学会を通して感じたこと

大学院博士前期課程2年 沼尾 圭 亮

晴天に恵まれた5月23日、アーキテクトコースの学部2年生を対象に、授業（建築設計演習Ⅰ）の一環で、非常勤講師の佐久間宏一先生（エア・コーポレーション）が設計・施工を手掛けられた住宅作品の見学会が催されました。指導補助のTAとして私も帯同し、着工直後・工事中・竣工直後・竣工数年後と時期を違えた郡山・本宮の7棟について、普段の授業では学ぶことの難しい現場やディテールの実際に触れ、クライアントの要求や土地の持つ文脈を踏まえながら形にする過程を体験しました。冬の強風を避けるため屏風のように外壁をせり出す（写真右）、日本庭園という「和」との調和を安易に「和風」に求めない（同左）といった解決策の数々は興味深いものでした。見学会を通して、家族像の分析や敷地条件の読み込みといった授業の課題が設計の基礎となることや、提出までの過程の重要性への理解も進んだことと思います。前期終了時に提出される設計作品に、この経験を活かして欲しいと願っています。



見学時の風景



集合写真

建築施工Ⅰ 現場見学会



今年度の現場見学会は昨年度同様、郡山駅そばの星総合病院移転新築工事現場にて6月25日に開催され、受講学生130名余りが参加しました。前回、コンクリート打設や主鉄筋の溶接を見学した病室棟や診療棟は、躯体工事が終わり内・外装工事に取り掛かっていました。現場所長からの説明を受けた後、病院特有の設備工事の状況や、表に響かないようにと見えなくなる下地にまで丁寧な施工する仕上工事の状況を見学しました。また当該現場に配属されている2名の本学科OBも、現場での説明や質疑応答に対応しました。入社3年目の平田康太氏（倉田研卒：写真左）は、工事写真の記録や担当工区における作業員との打ち合わせが今の主な仕事内容であり、施工管理職の仕事とは建設に携わる全ての作業員が作業しやすい環境づくりに務め、職人に分かりやすい適切な指示を出すことと説明しました。多くの人との出会いを大切に、大変な仕事ではあるが、後々まで「この建物は自分が造った」と胸を張って言えることがやりがいであり喜びでもあると、学生に自らの仕事の魅力を語りました。入社2年目の岡野健太郎氏（三浦研大学院卒：同右）も、社会では積極的にアタックし必要な知識を吸収できるからこそ、大学では大学でしか学べないことを大いに学ぶべきと、就職活動を向かえる3年生たちにエールを送りました。（文責：編集係 市岡）



新任の先生

非常勤講師 大内 富 夫

担当科目：建築防災工学特論



この4月より、大学院で「建築防災工学特論」を受け持つことになりました大内です。

私は、千葉大学工学部建築学科を卒業後、同修士課程に進み、終了と同時に鹿島建設に入社しました。大学でのテーマが建築物の耐火性に関するものであったことから、入社後も技術研究所にて防火に関わる研究開発に従事し、結局、定年まで36年間、防火をキーワードにした分野、すなわち防耐火材料工法開発、避難計画、防災計画立案、耐火設計、火害調査等々の業務に当たってまいりました。退職後も3年ほど材料メーカーで、耐火被覆がらみの業務を行っておりましたので、大学時代を含め、ずっと防火の世界から抜け出せずにおります。

縁あって、日本大学で教鞭をとることになりましたが、以上のような経歴でありますので、防災の中でも建物の火災安全をいかに考えるかを授業の軸として進めてまいります。これまで建築防火分野は仕様設計が主流で、数値さえ守れば設計が終了するという面も見られました。しかし、建築基準法改正以来、本分野にも性能設計が導入され、建築関係者は、火災現象を理解した上で、よりよい対策を講じることが求められています。

この講義の中で、これまでの経験を少しでも若い皆さんに伝えることができたと願っております。

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・齋藤俊克, 出村克宣; 「ポリマー混入繊維補強ポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ性状」, セメント・コンクリート論文集, No. 65, pp. 470-476, Feb. 2012
- ・若井正一, 飯田裕樹; 「応急仮設住宅の居住実態と問題点に関する一考察 - 新潟県中越沖地震における柏崎市の被災調査報告 -」, 日本インテリア学会論文報告集, 22号, pp. 1-7, 2012
- ・土方吉雄; 「郡山の都市づくりの歴史 - 安積開拓と安積疎水開削, 耕地整理, 戦災復興計画 -」, 日本都市計画学会誌296号, pp. 36-37, Apr. 2012
- ・浦部智義, 芳賀沼整, 滑田崇志; 「福島県における仮設から復興に向けた住環境形成への取り組み」, 農村計画学会誌31巻1号, pp. 15-21, Jun. 2012

発 表 論 文

* 届け出があった記事を掲載

■日本インテリア学会東北支部研究報告会

日時: 平成23年5月31日 会場: 東北芸術工科大学 (山形県)

- ・原発事故による放射能汚染と屋内子ども遊び場に関する一考察 - F県K市に立地するPK施設の事例 - 高守留珠, 若井正一
- ・子どもたちのパレット - 夢を育む総合芸術学校の提案 - 阿部圭, 若井正一
- ・野 彩 光 場 - 銀座産直野菜プロジェクト - 永沢公規, 若井正一
- ・中国におけるユニバーサルデザインの構築に関する基礎的研究 - 安徽省宣城市をモデルとしたUDガイドラインの試案 - 余恋旖, 若井正一

■日本建築学会東北支部研究報告会

日時: 平成24年6月16~17日 会場: 八戸工業大学 (青森県)

- ・ネットワーク及び補修材を用いた自己修復コンクリートの繰り返し修復に関する検討 大平旭洋, 三浦裕騎, Sanjay PAREEK
- ・Cu-Al-Mn超弾性合金を用いた自己修復コンクリートの基礎的研究 三浦裕騎, Sanjay PAREEK, 荒木慶一, Kshitij Shrestha, 大平旭洋
- ・補強用竹素材にエマルジョン塗布した場合の竹補強セメントモルタルの曲げ性状 木村彰吾, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・CO₂削減を目的としたインド及び日本産フライアッシュを用いた無焼成レンガの圧縮強さに及ぼす影響 斎藤雄仁, Sanjay PAREEK
- ・結合剤をビニロン繊維補強セメントモルタルとしたポーラスコンクリートの曲げ性状 十文字拓也, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・カルシウム系防せい剤を用いた鉄筋防せいペースト及び断面修復モルタルの防せい性評価 飯野将広, 渡辺宗幸, 齋藤俊克, 出村克宣
- ・建築用内装仕上げ材の防火性能に関する研究 - 施工5年経過後の防火性能 - 安藤祐太郎, Sanjay PAREEK
- ・鋼製永久型枠を用いたRC造梁部材の継手位置が及ぼす曲げ性状に関する研究 - RC造梁部材の継手位置が及ぼす曲げ性状 - 遠藤正美, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK
- ・既存鉄骨造はり継手の補強方法に関する研究 本田優, 浅里和茂, 千葉正裕, 日比野巧

■渡部和生非常勤講師が設計した作品「コートロレー・にしくぼ診療所」が、『新建築2012年3月号』に掲載された。また、福島民報新聞をはじめとする新聞数社に「希望の建築」と題して寄稿された記事が2月から連載された。

■濱田教授は、3月5日、日本建築学会環境工学委員会音環境運営委員会主催、第70回音シンポジウムにおいて、「聴感実験による床衝撃音遮断性能のA特性評価に関する検討」を発表された。

■早川真介君 (浦部研研究生) は、3月17・18日に行われた「第17回福岡Design Review 2012」に「街角大学建築学科」を出展し、応募作品378作品中決勝トーナメント12選に選ばれた。

■福島県建築士会郡山支部と速水研究室は、3月30日、まざっせKORIYAMAにて、『身近な郡山の建築遺産50の現在 - 東日本大震災の前と後 -』と題する郡山の歴史遺産の被災調査報告会を実施した。

■日本建築学会東北支部平成24年度役員に、支部長若井教授、代議員千葉教授、常議員速水准教授が当選された。

■齋藤助教の博士学位論文「ビニロン繊維補強ポーラスコンクリートの性状と調査設計法」が建築雑誌5月号の文献抄録に掲載された。

■若井教授は、5月12日、せんだいメディアテークで開催された日本建築学会東北支部総会において、功労賞を授与された。

■5月12日、せんだいメディアテークで開催されたJIA全国学生卒業設計コンクール2012東北支部審査会において、加賀陽一君 (松井研卒) の作品「個と孤の関 - 単身居住者における共同体形成 -」が、東北支部代表3作品 (6作品中) に選定された。全国審査会は6月23日、新宿アイランドタワーにて開催された。

■土方准教授は、5月12日、福島県より福島県景観審議会委員を再度委嘱された。

教室ニュース

■5月23日、東京ガーデンパレスで日本大学桜門建築会創立90周年記念フォーラム「NEXT 10 YEARS~東北からの報告」が行われた。浅里教授は「東北の今と復興の10年」と題して基調講演を行った。土方准教授はパネルディスカッション「東北復興10年に向けて~建築界の課題と桜門建築会に望むこと」でコーディネーターを務められた。

■市岡講師は、5月28日、福島県より福島県地方港湾審査会の委員を再度委嘱された。

■5月31日、本学科学生を対象とした国宝白水阿弥陀堂 (いわき市・願成寺) の修復工事現場見学会が開催され、4年次生・大学院生37名が参加した (p6 報告記事参照)。

■浦部准教授は、建築雑誌6月号に、「福島県における仮設から復興に向けての住環境形成の実践と考察 - 復興に向けた住環境形成への取り組み -」と題して寄稿した。

■速水准教授は、6月4~8日、郡山コミュニティ放送「朝のコラム」に出演し、速水研究室と福島県建築士会郡山支部とでまとめた『身近な郡山の建築遺産50の現在 - 東日本大震災の前と後 -』について語った。

■土方准教授は、6月11日、郡山市より、郡山市総合治水対策連絡協議会委員を委嘱され、副会長に選出された。

■松井准教授と市岡講師は、6月18日、須賀川市より須賀川市新庁舎建設設計業務プロポーザル競技審査委員会委員を委嘱された。

■浦部准教授と浦部研究室は、6月21日から7月7日までパリ市庁舎で行われる「東日本再生ビジョン展」に、震災復興への取り組みをパネル出展した。

■6月25日、建築施工Iの一環として、星総合病院移転新築工事現場 (郡山市) の見学会が開催され、受講生133名が参加した (p6 報告記事参照)。

■松井准教授と市岡講師は、6月29日、須賀川市より須賀川市立第二小学校校舎改築プロポーザル競技審査委員会委員を委嘱され、松井准教授は委員長を委嘱された。

■浦部准教授と浦部研究室のログハウス仮設住宅の取り組みが、ログハウスマガジン7月号に掲載された。

平成24年7月1日現在

教授	浅倉千出濱三若浦野速	里田葉村田浦井部内水	和光正克幸金正智英清	茂春裕宣雄作一義治孝	鋼応構建都イ建鉄近	構用造築環市インテリヤデザイ	造学学学学学学学学	16号館	1階	106	(956-8734)
教授	土方井岡山藤比	S. N. パリーク	吉S. G. 則子	雄	都工住建日建	材料科	史学	9号館	1階	102	(956-8747)
教授	松市大齋日	ブンタラ	井岡山藤比	壽綾亜紀子	学宅築本	計分	画析画	45号館	2階	206	(956-8742)
教授								16号館	2階	205	(956-8735)
教授								45号館	2階	205	(956-8751)
教授								45号館	3階	305	(956-8746)
教授								9号館	3階	308	(956-8737)
教授								9号館	1階	114	(956-8740)
教授								16号館	2階	205	(956-8733)
教授								16号館	2階	204	(956-8732)
教授								16号館	2階	205	(956-8733)
教授								9号館	1階	114	(956-8740)
教授								16号館	3階	310	(956-8752)
教授								45号館	2階	207	(956-8753)
教授								45号館	3階	301	(956-8750)
教授								9号館	3階	309	(956-8743)
教授								16号館	2階	207	(956-8744)
教授								9号館	3階	310	(956-8872)
教授								9号館	1階	102	(956-8747)
教授								45号館	3階	304	(956-8742)
教授								16号館	2階	206	(956-8735)
教授								45号館	2階	205	(956-8751)
教授								45号館	3階	305	(956-8746)
教授								9号館	3階	308	(956-8737)
教授								9号館	1階	114	(956-8740)
教授								16号館	2階	205	(956-8733)

兼	担	教	授	根	上	彰	生	地	域	計	画	特	論	45号館	2階	207	(956-8753)				
兼	担	教	授	本	杉	省	三	建	築	設	計	画	特	論	9号館	3階	309	(956-8743)			
兼	担	准	授	近	藤	典	夫	応	用	数	学	特	論	16号館	2階	204	(956-8732)				
担	常	勤	講	石	井	久	克	建	築	設	計	画	特	別	実	習	45号館	3階	301	(956-8750)	
非	常	勤	講	大	内	富	夫	建	築	防	災	工	学	特	論	16号館	3階	309	(956-8730)		
非	常	勤	講	狩	野	勝	重	建	築	技	術	史	特	論	16号館	3階	309	(956-8730)			
非	常	勤	講	熊	倉	洋	介	建	築	設	計	画	特	別	実	習	45号館	2階	207	(956-8753)	
非	常	勤	講	長	澤		泰	建	築	設	計	画	特	論	45号館	3階	301	(956-8750)			
非	常	勤	講	二	瓶	博	厚	建	築	意	匠	特	論	45号館	3階	301	(956-8750)				
非	常	勤	講	濱	尾	博	文	建	築	構	造	設	計	特	別	実	習	16号館	1階	106	(956-8734)
非	常	勤	講	古	市	徹	雄	建	築	意	匠	特	論	45号館	3階	301	(956-8750)				
非	常	勤	講	三	浦	敏	伸	建	築	設	計	画	特	別	実	習	45号館	3階	301	(956-8750)	

非	常	勤	講	師	秋	月	直	道	建	築	設	計	演	習	45	2	205	(956-8751)
非	常	勤	講	師	阿	部	直	人	建	築	計	演	習	45	3	304	(956-8742)	
非	常	勤	講	師	倉	持	幸	由	建	別	施	工	義	16	3	309	(956-8730)	
非	常	勤	講	師	栗	岡	道	均	建	築	講	習	義	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	近	藤	宏	男	建	築	計	工	習	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	境	久	英	孝	建	築	施	工	習	16	2	204	(956-8732)	
非	常	勤	講	師	佐	間	マ	一	建	築	造	習	計	45	3	304	(956-8742)	
非	常	勤	講	師	佐	藤	リ	次	建	築	計	演	習	16	2	207	(956-8744)	
非	常	勤	講	師	島	田	雅	子	建	築	設	計	演	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	富	中	太	美	建	築	設	計	演	45	2	207	(956-8753)	
非	常	勤	講	師	野	崎	淳	基	建	築	報	企	理	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	橋	本	一	実	建	築	情	処	設	45	3	304	(956-8742)	
非	常	勤	講	師	原	澤	由	夫	建	築	築	構	備	16	3	310	(956-8752)	
非	常	勤	講	師	平	野	延	寬	建	築	構	造	法	16	3	309	(956-8730)	
非	常	勤	講	師	藤	田	正	仁	建	築	設	計	習	16	2	207	(956-8744)	
非	常	勤	講	師	堀	下	房	朗	建	築	設	計	習	9	3	309	(956-8743)	
非	常	勤	講	師	松	田	秀	幸	建	築	設	計	習	45	3	304	(956-8742)	
非	常	勤	講	師	陽	添	英	人	建	築	設	計	習	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	山	澤	秀	患	建	築	設	計	習	16	3	310	(956-8752)	
非	常	勤	講	師	渡	邊	英	夫	建	築	設	計	習	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師	渡	部	正	順	建	築	設	計	習	45	3	301	(956-8750)	
非	常	勤	講	師			和	典	建	築	設	計	習	16	3	309	(956-8730)	
非	常	勤	講	師				宏	建	築	設	計	習	45	2	205	(956-8751)	
非	常	勤	講	師				生	建	築	設	計	習	45	3	304	(956-8742)	

教 室 事 務 小 林 まゆみ 建 築 学 科 セ ン タ ー 16号館 3階 309 (956-8730)